



- ・グループウェア(スケジュール、掲示板 etc)
- ・プロジェクト管理(週報の登録、照会、承認)
- ・届出管理(休暇申請 etc)
- ・経費精算

他に追加したい機能があるけど古くてできない…



社内システムの老朽化に対応する必要があった

今月の売上を計上しなきゃ



各部門長

各部門用の売上管理ツール

- 部門Aツール
- 部門Bツール
- 部門Cツール
- 部門Dツール
- 部門Eツール

各部門ごとに毎月売上等を登録

各ツールから必要なデータを抽出し集計



全体の売上、入金、支払い管理表が完成

この工程、もっと効率よくできないかな

毎月の収支計算業務に手間と時間がかかっていた

<給与計算の場合…>



表計算ソフトを用いて個人単位で出退勤を毎月登録



総務に提出

効率をあげたいけどミスも防ぎたい…



全社員の勤怠を手作業で給与計算ソフトへ登録

紙の明細書を



発行・配布

バックオフィス業務の効率を上げたい

事例に学ぶ

TeamSpirit
CASE 53 導入

クラウド型バックオフィス業務
支援サービス

TeamSpirit
各種ソフト

月額 18,000円～

※費用はプランやオプションによって変動します。

導入の決め手:

- ・機能面、コスト面ともにバランスが良かったため



株式会社ロジック

〒761-0102
高松市新田町甲2190-3
TEL:087-841-6717
URL: <https://www.kagawa-logic.co.jp>

ホームページ



高松市に本社を置くIT企業。お客さまの要望に合わせたソフトウェアの開発やシステムのトータルコーディネートを手掛けています。

株式会社ロジックでは多種多様なソフトウェアやシステムの開発を手掛けています。同社ではスケジュール管理や週報登録、届出申請などの社内システムを自社で開発し活用してきました。しかし、20年以上に渡って運用し続けてきたシステムは老朽化が進行。機能の追加、修正が難しいことが課題となっていました。「従来の社内システムには出退勤記録を出力する機能が搭載されておらず、社員たちは週報登録とは別に表計算ソフトへ各々の勤務状況を記録。総務部がその記録を手作業で給与計算ソフトへ転記する必要があり、二度手間が発生していました。さらに、システムには月ごとの収支を計算する機能も無く…。そのため、別に各部門ごとに売上管理ツールを使用して売上・入金・支払いデータを収集。その後、個々にデータを抽出、集計することでようやく全社の収支を把握

クラウド型バックオフィス業務支援サービス

TeamSpirit 勤怠・経費・工数+(プロジェクト原価管理)

バックオフィス

- 各種休暇申請、労務状況の可視化など(勤怠)
- OCR領収書読み取り、立替精算や請求書の支払、経費利用精算状況の分析など(経費)
- 各社員がどれくらいの時間、どのプロジェクトに携わっているかを管理することができる(工数)
→各社員ごとに設定された「標準単価」と日々取得される「工数実績」からシステム等の開発にかかるコストをリアルタイムに把握することができる(プロジェクト原価管理) etc

社内システムを1つに集約!



以前の社内システムと同等の機能
+αの機能を使うことができる!

二度手間カットでバックオフィス業務を効率化



2分の1程度の時間短縮につながっている!

効果を実感!

担当者コメント

当社は2024年から3年計画でBCP対策に向けた社内のシステムやデータ、ネットワークサービスの更新、刷新へ取り組んでいます。第一段階としてバックオフィス業務支援サービスを導入しました。システムの正式運用を開始してから約11カ月ほどになりますが特に問題なく運用し続けることができている。操作マニュアルの作成や社員への周知、説明会など時間をかけて導入の準備をして良かったです。

株式会社ロジック 支援部

木村 弘 さん



効果1 業務品質の向上につながっている

システムに登録された工数実績や売上など各種データをリアルタイムで集計、参照ができるようになった。システム開発等における適正な見積もりや人材配置を検討することができる。

効果2 自然災害などのリスクに備えたBCP対策を進めることができる

クラウド型サービスを活用することで物理的な被災リスクを回避。万一の際、事業の迅速な復旧が可能になった。また、サービスは定期的なアップデートされており常に最新の機能を使うことができる。

効果3 IT導入によって空いた時間を採用活動へ充てることができる

数年前まで社員の高齢化問題に悩んでいた同社。IT導入によるバックオフィス業務の効率化で生まれた時間を、採用活動へ充てるようになったから新卒採用者が増加。IT導入は思わぬ成果へつながっている。

個々の年次有給休暇取得状況等もリアルタイムで更新されるようになり、手作業で数える必要がなくなりました!



できる状況でした。加えて、自然災害等に備えたBCP対策についても熟考した結果、社内システムを置き換えることが決定しました」と木村さん。導入したのはクラウド型業務支援サービス。従来社内システムの機能を網羅しつつ、「勤怠」「経理」「工数」各ソフトウェアが連携することで売上や原価等の情報も含めて一元管理ができるようになりました。さまざまなデータが簡単に引き出せるようになったことで、バックオフィス業務を中心に負担軽減が実現しています。

同社では2024年8月から新システムの選定や設定、動作検証等に取り組んできました。正式運用前には拠点や部署ごとに数名の方へ従来システムとの並行運用を行い、問題点や課題を修正していったそうです。「初期設定や機能カスタムを自社で行う必要があり苦労しましたが、その分、コスト面は抑えられました。今後は工数実績やプロジェクトごとの原価管理情報等を活用して利益最大化へつなげたいです」と木村さんは語りました。